

科目名	人権を考える				
英語科目		ナンバリング	GHhur103		
開講期	春学期	開講学部等	共通教育科目	配当年次	1年次
教員名	戸田 五郎, 灘本 昌久				
単位数	2単位				

授業概要／Course outline

現代ほど人権・平等・公正を求める時代はない。それは、日本にとどまらず、全世界的現象である。しかし、人権とは何かということは、必ずしも自明のことではない。本講義においては、さまざまな課題について、人権をテーマに考え、各自が人権に如何に向き合って生きて行けるのかをさぐる。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

授業内容・授業計画／Course description・plan

【灘本昌久】

授業内容

本講義では、絵本『ちびくろサンボ』絶版問題を中心に、差別と表現の問題を考える。

授業計画

第1回（4月9日）人権問題概論

1960年代に様々な差別問題・人権問題がクローズアップされた。以後の、日本における人権のあゆみを概観する。

第2回（4月16日）『ちびくろサンボ』問題1

絵本『ちびくろサンボ』が人種差別であると指摘を受けた日本での経緯を考える。

第3回（4月23日）『ちびくろサンボ』問題2

絵本『ちびくろサンボ』成立の経緯と、人種差別に関する論争を世界レベルで考える。

第4回（4月30日）『ちびくろサンボ』問題3

絵本『ちびくろサンボ』問題をめぐる論争から、差別と表現の問題を考える

第5回（5月14日）発達障害

発達障害の中の「アスペルガー症候群」について、理解を深める

第6回（5月21日）発達障害・介助犬

発達障害の問題に加えて、盲導犬や聴導犬などの介助犬をめぐる障害者問題を考える

第7回（5月28日）性同一性障害について

性的マイノリティーのうちの性同一性障害について考える

第8回（6月4日）新しい部落史1（前近代）

この30年間に飛躍的発展をとげた新しい「部落史」について解説する

第9回（6月11日）新しい部落史2（前近代）

この30年間に飛躍的発展をとげた新しい「部落史」について解説する

第10回（6月18日）新しい部落史3（近現代）

この30年間に飛躍的発展をとげた新しい「部落史」について解説する

第11回（6月25日）アニメ「もののけ姫」と差別の歴史

宮崎駿監督のアニメに秘められた差別問題の最新研究

【戸田五郎】

授業内容

国家は主権に基づき、外国人の入国の許否に関し原則として裁量権を有する。しかし、人権の国際的保障の発展を背景として、外国人の人権の保護という観点から、この裁量権は様々な制約を受けるようになっている。私（戸田）の担当部分では、主として国際法の観点から、外国人の出入国・在留と難民の国際的保護の問題を取り上げ、初学者向けにやさしく解説する。

授業計画

第12回（7月2日）外国人の出入国と人権

国家はその裁量権に基づき、外国人の入国を完全に禁止することも、あるいは逆に無制限に認めることもできる。しかしそのような両極端をとる国はほぼ無く、外国人に対し一定の条件のもとに入国と在留を認めるのが一般的であり、そのために諸国は出入国管理制度を置いている。この授業では日本の出入国管理制度を中心に、外国人の人権の保障という観点から解説する。

第13回 (7月9日) 犯罪人引渡し・退去強制と人権

外国人はその意思に反して在留国からの出国を強制され、国籍国その他の国に引き渡されたり、送還されたりすることがある。引渡先または送還先において本人が重大な人権侵害を受ける蓋然性がある場合、引渡しまたは送還は禁じられるという原則が国際法上確立している。この授業では死刑を題材にこの問題を検討する。

第14回 (7月16日) 難民の国際的保護

難民とは、広義には様々な理由で国籍国を追われ、国外に出ることを余儀なくされている人々を指す。難民保護のための国連機関である国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が2021年に支援の対象としている人々の数は1億に近い。この授業では難民の国際的保護の歴史と現状を、日本の状況も交えて紹介する。

第15回 (7月23日) 出入国管理・難民関連事例の検討

最終回は、出入国管理や難民認定を巡って日本の裁判所で争われた代表的な事例を紹介し、日本の出入国管理体制及び難民認定制度が抱える課題について検討する。

準備学習等 (事前・事後学習) / Preparation and assignments

第1回 人権問題概論

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第2回 『ちびくろサンボ』問題1

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第3回 『ちびくろサンボ』問題2

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第4回 『ちびくろサンボ』問題3

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第5回 発達障害

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第6回 発達障害・介助犬

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第7回 性同一性障害について

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第8回 新しい部落史1 (前近代)

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第9回 新しい部落史2 (前近代)

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第10回 新しい部落史3 (近現代)

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第11回 アニメ「もののけ姫」と差別の歴史

[事前学習] 事前にmoodle上に掲載した参考文献を読んで理解に務めること。(所要時間120分)

[事後学習] moodle上に掲載した参考文献をもとに授業を振り返り、理解の定着を図る(所要時間120分)

第12回 外国人の出入国と人権

[事前学習] 事前にmoodle上に掲示する参考資料を各自でダウンロードして読んでおくこと(所要時間120分)

[事後学習] 毎回の授業で提示する、更に考えるべき論点について、各自で検討しておくこと(所要時間120分)

第13回 犯罪人引渡し・退去強制と人権

[事前学習] 事前にmoodle上に掲示する参考資料を各自でダウンロードして読んでおくこと(所要時間120分)

[事後学習] 毎回の授業で提示する、更に考えるべき論点について、各自で検討しておくこと(所要時間120分)

第14回 難民の国際的保護

[事前学習] 事前にmoodle上に掲示する参考資料を各自でダウンロードして読んでおくこと(所要時間120分)

[事後学習] 毎回の授業で提示する、更に考えるべき論点について、各自で検討しておくこと(所要時間120分)

第15回 出入国管理・難民関連事例の検討

[事前学習] 事前にmoodle上に掲示する参考資料を各自でダウンロードして読んでおくこと(所要時間120分)

[事後学習] 毎回の授業で提示する、更に考えるべき論点について、各自で検討しておくこと(所要時間120分)

授業の到達目標 / Expected outcome

人権問題について、自分の頭で考え判断できる知識・思考方法と感性を養う。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・ 思考力
- ・ 幅広い教養

評価方法／Evaluation

定期試験により評価する（100%配点）

教 材／Text and materials

【灘本昌久】

moodle上で指示しますので、参照してください。

質問や相談の方法／Instructor contact

【灘本昌久】

何か質問があれば、講義中や講義後、そしてメールでもどうぞ。

e-mail:nadamoto@cc.kyoto-su.ac.jp

【戸田五郎】

e-mail:gtoda@cc.kyoto-su.ac.jp